

オオカワリギンチャク



△鮮やかな蛍光色のオオカワリギンチャク (水槽番号302)

水族館へ行こう!

京都大学白浜水族館

20

深見 裕伸

近年、タイバーの間で人気になっているのが、黄色い蛍光色のオオカワリギンチャクである。同

ベ町という狭い地域の特有種だ。ただ、静岡県伊豆半島でごく少数ながら確認されており、探せば他の場所で見つかる可能性はある。田辺湾では水深約40メートルという深い所に群生して

である。2004年に串本海中公園センターの内田絃臣博士によって「Halcurias levis (ハルクリアスレビス)」という名前が付けられた。ちなみに日本でカワリ

にすることはまれである。京都大学白浜水族館ではオオカワリギンチャクとセイタカカワリギンチャクの2種を展示している。低水温の所に生息しているため、展示水槽は常に15、16度に調整している。このため、水槽面に水滴が付きやすいのだが、これらの生物が元気

暗闇に咲く黄色い花

種を含むカワリギンチャク類は他のイソギンチャクと体の構造が大きく異なっており、名前の通り「変わり者」である。

おり、黄色いじゅうたんのように見える。何のためかこのような鮮やかな色をしているのかは分からない。

ギンチャク類は、オオカワリギンチャク、カワリギンチャク、アバタカワリギンチャク、少しグループの違うセイタカカワリギンチャクの4種類が知られている。

で生きるためだと理解していたきたい。このように実際目にするのが難しい生き物を間近で見られるというのが水族館の利点である。皆さんもタイバーになっ

しかも白浜町からみな鮮やかな蛍光色のオオカワリギンチャク (水槽番号302)

0年代にその存在が知られていたものの、新種として学術的な名前がきちんと付いたのはつい最近

これら種類はすべて水深40〜400メートルという深い所に生息しているため、一般の人が実際に目

た気分でのオオカワリギンチャクを観察してみたいかがだろうか。(京都大学助教)